

コロナ禍における差別を薬害エイズ・ハンセン病問題の歴史から考える

— 私たちは、差別問題にどのように向き合うのか —

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、感染者のみならず医療従事者などに対し差別や風評被害により生活を脅かされる事態が起きています。さらに感染症に対する不安は、過去に起きたHIV感染症・ハンセン病に対する感染者や家族への差別・人権侵害に通ずるものがあり、脈々と引き継がれ解消されていません。

講師の井上昌和さんは、大学で社会福祉を学び、社会福祉施設に就職後、HIV感染を告げられた薬害エイズの被害・当事者で体調の悪化により、仕事や居住地を離れざるを得ませんでした。闘病を続けながら薬害問題やハンセン病問題にライフワークとして取り組み、今年度から社会福祉事業所の仕事に携わることになりました。

井上さんの経験や思いを聞く中で社会福祉は「差別」にどう向き合い、解消に向けてどのように働きかけていくのかをみなさんとともに考えてみたいと思います。

開催日時:令和4年1月22日(土) 13:00~14:30

開催方法:Zoom開催 事前登録が必要になります。

講師:井上昌和さん(「薬害エイズを考える会」代表、「ハンセン病回復者と北海道をむすぶ会」代表、さっぽろひかり福祉会 相談室あさかげ ピアサポーター)

対象者:①福祉現場で働く方 ②社会福祉専門職を目指す学生の方 ③社会福祉に関心のある方

定員:50名

参加費:無料

お問い合わせ:北海道大学病院 相談室 富田(011)706-7025

申込方法

QRコードまたはURLからアクセスして
事前登録(参加申込)をお願いいたします。



<https://us06web.zoom.us/meeting/register/tZAsc-irpz4pHdYh114TyMeycgSnKaepBpfX>

アンケートのお願い

研修終了後 下記URLよりアンケートのご回答をお願いいたします。

<https://forms.gle/9uR72E2ZCKNUmP4BA>